

＋ WEBオリジナル 漁業集落ならではの住宅設備



地元で「かけ下げ」と呼ぶ、エントランス脇の作業場



漁具などを積んだ軽トラックを直接、住宅に横付けできるように、正面エントランスとは別にアプローチを設けている

花露辺復興住宅には漁業集落ならではの工夫と設備が随所に施されている。

正面エントランス脇にある屋根付きのスペースは、地元で「かけ下げ」と呼ばれる作業場で、港で海水を浴びた軽トラックを洗ったり、漁具や合羽を洗って干したりすることができる（写真上）。

また、漁網などの漁具を修理などで住宅内に持ち込むことも多く、そのアプローチを容易にするため、エントランスとは反対側に、軽トラックが住宅に直接横付けできるような自動車用動線を設けている（写真下）。

さらに、各住戸の玄関脇には、漁で使う合羽を掛けておける収納スペースが設えられている。

こうした施設や設備は全て、UR都市機構の担当者が、住民の暮らし方を一つひとつヒアリングして、計画の中に取り込んだものだ。